
地域における視覚障害 リハビリテーションの展開

KINKI-ビジョン・サポートの活動について

○原田敦史 岡田弥 田中桂子 堀康次郎 山口成志

活動の開始から現在まで

KVSの活動開始のきっかけは、平成15年に施設に勤める歩行訓練士と眼科医、視覚障害者とかかわるボランティア、視能訓練士で機器販売業者の五人が知り合いになったことからでした。歩行訓練士は施設になかなかこない視覚障害者をどうしたらリハビリテーションの中に入れてもらえるか考えており、眼科医とボランティア、視能訓練士は施設を利用するまでに至らない人がどこで訓練を受けられるのか探していたのです。関西は視覚障害者向けのサービスが多いと言われていますが、まだ十分といえず医療と福祉の間にはやはり隙間ができていました。医療と福祉(施設)の間にある隙間を埋めるように、今利用できるサービスがないのであれば何か作ってしまおうとスタートしたのが一番の始まりです。

主な活動内容はリハビリテーションと集まる場の提供でした。この活動を毎月定期的に続ける中でスタッフを増やし、スタッフのできる範囲で活動を広げていきました。現在では大阪のNPOプラザに事務所をおき、活動も5年目に入りました。

活動方針

KVSは以下の二つを中心に活動を行なっています。

眼科医療従事者を対象に、視覚障害(見えない・見え難い)リハビリテーションについての理解を深めてもらうことを目的とした研修会・講習会の開催
視覚障害者を対象に、医療から視覚障害(見えない・見え難い)リハビリテーションへのスムーズな移行を助ける適切な情報提供と橋渡し

現在は活動も5年目に入り、

については、催しごとに定期的に実施してきており、

については、講座では受講者が200名以上、サロンという形で関わった人は1000名近くになりました。

今後は、"人の輪"をより大きくしながら、 や に加え、新たに

として、見えない・見えにくい人および眼科・リハビリ関係者への情報提供サービスが、しっかり根付く活動にする
を加えて活動していくことになっています。

活動を支えるスタッフ

スタート当初5名だったスタッフも現在18名に増えています。スタッフといっても無償活動であり、ほかに仕事を抱える中で、現在の視覚障害リハビリテーションに対して熱意を持ったスタッフが各方面から集まっています。このスタッフ構成もKVSの大きな特徴の一つです。

現在のスタッフ

視覚障害当事者 8名

企業に勤務している人、ホームヘルパーの資格を持っている人、消費生活アドバイザー、ピアカウンセラー

視能訓練士 2名

カウンセラー 1名

ケア・マネジャー 1名

機器販売業者 2名

歩行訓練士 4名

その他に顧問・アドバイザースタッフ

講座について

リハビリテーションの入り口を知ってもらう、体験的に参加してもらう、少しの訓練で生活を楽しんでもらうことを目的に、白杖講座とロービジョン講座を毎月交互に実施してきました。毎月3～5名の参加者があり、現在までに200名以上が参加しています。

白杖講座 1回のみ

内容

- 1 白杖の持つ意味・長さ(講義)
- 2 持ち方と基本的な振り方(実技)
- 3 階段昇降(実技)



ロービジョン講座 3回講座

内容

- 1 眼球運動訓練とは(講義・実技・体験談)
各人の視力を把握し、保有視覚を有効活用する方法について
- 2 眼球運動の確認と屋外での活用法
- 3 眼球運動の確認と屋外での活用法



サロンについて

サロンは、毎月1回土曜日または日曜日、10時から12時の2時間開催しています。参加は、自由で当初は、ほとんどが視覚障害者でしたが、最近は、医療関係者や、福祉関係者、光学機器メーカーのかたなど、多士済々になってきています。毎回20名ほどの参加があり、現在までのべ1000人以上が参加しています。参加者は京都・大阪・和歌山・兵庫と広い範囲から参加があります。

まず、自己紹介からはじまります。

最初はヘルパーと来ていた人が、このサロンに来て、さまざまな方と、おしゃべりして、自分の悩みなどを、お互いに話し、自信をつけて、一人で歩いてくるということもありました。

そして、このサロンのもうひとつのイベントは、終了後の、昼食です。時間がある人で食事に行き、テーブルごとの話題で盛り上がります。

ここ2年間のサロンの内容

- 10月 災害に備えて
- 11月 災害に備えて
- 1月 モニター会
- 2月 共用品研究会・関西を迎えて
- 3月 あべの防災センターへお出かけ
- 4月 点字の読みの基礎の基礎
- 5月 バリアフリーダイビングNPO法人オーシャンゲートの方
- 6月 サロン「触る会」を迎えて
- 7月 音声ガイド付き映画について
- 8月 障害者向けに旅行を企画しているトラベルライトの方
- 10月 リラックスを学ぼう!!
- 11月 メガネの取り扱いやレンズについて
- 12月 京都大学と函館未来大学の方が講師
- 1月 らくらくホンを触ってみよう
- 2月 「自立移動支援プロジェクトって何？」
- 3月 次の一年の希望について聞きます
- 4月 「役立てよう、介護のコツ」
- 5月 「盲導犬との暮らし」
- 6月 遮光レンズの東海光学(株)さん
- 7月 お出かけサロン
- 8月 100円均一で見つけた"使えるもの
- 9月 松下電器のユニバーサルデザイン

ロービジョンケア講演会について

KVSの一つの柱である、医療と福祉の橋渡しのために年2回程度実施しています。医療から福祉への流れを良くし、そして顔を合わせることで連携を深めようということが目的です。

眼科関係者・リハビリ関係者を主眼においたロービジョンケアの講演会で今年からは講演会後に交流会を実施し見えにくい・見えにくい人たちが、どのように日常生活をおくり、どのように会社で働いているか、また、スポーツやコンサートをどうエンジョイしているかを、実感として理解してもらう場を作りました。



現在までの講演会内容

平成17年6月4日
KVS大阪の活動について 活動方針とこれまで、そして、これからの活動内容
KVS大阪 原田 敦史
医療関係者に望むこと KVSプラスの会(40代女性の会)
診療最前線のロービジョンケア 眼科医 上江田 安彦

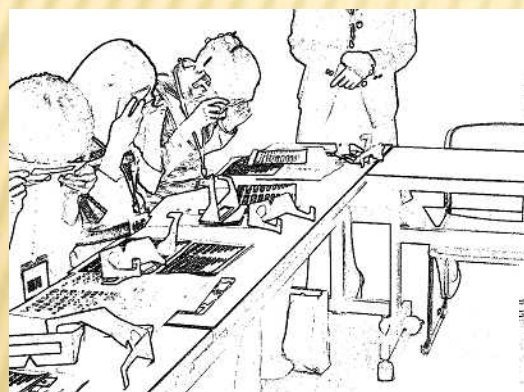
平成17年12月10日
KVS現状について 原田 敦史
医療関係者に望むこと KVSヤローの会(勤労者男性の会)
「ロービジョンケアの実際。私の場合。」
阿曾沼早苗氏(大阪大学付属病院 眼科 視能訓練士)

平成18年12月16日
医療現場に望むこと KVSブルーベリーの会(勤労者男性の会)
視覚障害リハビリテーションと就労 津田諭氏(日本ライトハウス)
「ロービジョンケアと網膜再生医療研究」
高橋 政代氏(理化学研究所発生再生科学総合研究センター)
機器展を初めて実施

平成19年7月8日
「共生」を語るその前に 倉本 智明氏(関西大学 非常勤講師)
「眼科における視覚障がい者への支援 ロービジョンケア」
高橋 広氏(柳川リハビリテーション病院眼科部長)
機器展を前回同様実施
講演会終了後、交流会を初めて実施

講習会について

定期的に実施する講座や講習会では埋めることができない隙間があるためスタッフの余力で実施している。スタッフの特性を生かし、医療面・福祉面両面での講習会を実施しています。



ロービジョン者のガイドヘルプ基礎講座
家族と一緒に参加してもらい、手引きの仕方・され方を学んでもらう講習会。プログラムの中には家族の見え方疑似体験、交流会、家族以外を手引きするなど。一日の講習会で過去に2回実施。

視能訓練士・ボランティア向け講習会
KVSスタッフ総出で、病院内の手引き、福祉機器の利用、カウンセラーの立場から、視覚障害者指導員の立場から等盛りだくさんの内容で実施。6日間の講習会で過去に1回実施。

点字読み指導者養成講座
点字を習いたいけれど指導してくれる場所がない、指導してくれる人がいないという声を聞き実施。書くことではなく読みを指導することに焦点を合わせた講習会。2日間の講習会で過去に1回実施

その他の活動

SHG

見えない・見えにくいという障害を理解し、自分に引き受け、再び自分らしい人生を歩み出す作業、あるいは家族としてそれを受け止め、援助する作業は孤独な道程です。孤立せずに自分のところを見つめ、言葉にし、また他の人の思いに反応し、自分という器を柔らかく拡げてゆくこと。この作業を、話が通じる、わかってもらえる仲間と安心できる空間で1年間という期間を設けて実施しています。今年度は2つのグループを運営予定です。

中途視覚障害の男性でかつ現時点で就労している方(実施中)

中途視覚障害者の家族グループ(募集中)

病院サロン 大会で詳細な内容について発表をしています。

訓練を受けられるところがあるよと教えられても、そのハードルは高く、なかなか電話をしたり、訪問することができません。しかしながら、通っている病院の視能訓練士から、この病院でサロンがあるから来なさいよと言われれば、これほど、参加しやすいものはないのではないのでしょうか。ここでは、見えない・見えにくい人はもとより、医療関係者やKVSのスタッフも参加し、小グループで交流を行います。この病院内サロンから、自信をつけて、LV講座や白杖講座に進み、そしてKVSのサロンに参加されていきます。

茶い夢・ヤローの会・ブルーベリーの会・HOTPOTの会

誰でも参加できるサロンの他に、SHGの卒業生が自主運営するグループ、40代の女性のグループ、見えない・見えにくい勤労者の集いがあり、グループごとに定期的を開催しています。

講師派遣

要請に応じて、講習会へ講師を派遣したり、学校に講演に行きます。

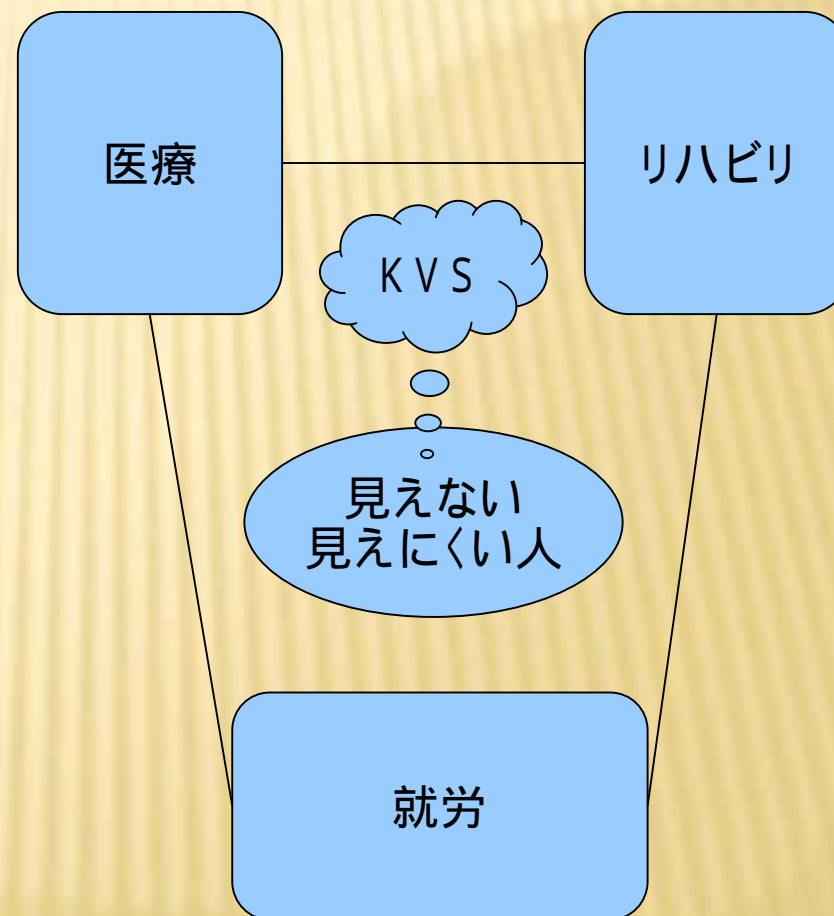
今後の活動について

活動を開始して5年が経過しました。この5年間でスタッフも5人から18人へと増えました。参加・利用した人は延べ人数で1500人以上となっています。これはロービジョンケアを支える一つの輪ができ広がってきたということだと思います。

(図1)

けれどもこんな意見もあります。「ロービジョンケアを受けられる患者は、大袈裟に言ったら、宝くじが当たった運が良い人だけが出会えるものだと思う。患者のいる土地と環境と、周りによって、ロービジョンケアを受けられるか、受けられないか、受けられるのが遅くなるかなど、決まっているように思う。」

これは、スタッフの言葉です。



今後の活動について

今後我々は今まで行ってきた活動、ロービジョンケアの啓発と普及活動により力を入れていきます。それは、ただ単に講演会といった形で演台から必要性を呼びかけたり、情報を一方的に流すものではありません。つまり医者と患者、ボランティアと当事者、訓練士と利用者が一堂に会して交流する場所を提供していくということです。一人の人間同士として繋がりを持つことで、単に知っている「連携」から、お互いをよく知っている「連携」という今までの一歩先にあるものを目指したいと思っています。そして既に活動を開始しています。

加えて、見えない・見えにくい人のQOL向上にも力をいれ続けていきます。KVSの講座を利用する見えない・見えにくい人の半数以上は施設での訓練を受けていない人です。またおそらくその先も受けることがない人です。そういう意味でも隙間はまだまだあります。その隙間を埋めることで、見えない・見えにくい人に対して、一日も早い社会参加・社会復帰に向けた”心のケア”を行い、また必要な情報を提供し、適切な機関へ繋ぐことができると考え、少しずつでも続けていくことを目指します。

サロンや各種講座の案内などお知らせしています。購読を希望される方は下記アドレスへ「配信希望」と記載の上お申し込みください。登録は無料、配信停止も自由です。お気軽にお申し込みください。

mm-kanri@kvs.cc

ホームページ <http://www.kvs.cc/> メール info@kvs.cc

住所 553-0006 大阪市福島区吉野4-29-20NPO プラザ 102号